

討論

◎白石市第一幼稚園休園の白紙撤回並びに次年度年少組園児募集の即時再開に関する請願

定例会最終日(12月19日)に行われた討論の主な内容は次のとおりです。

反対 松野 久郎

近年の少子化に伴い、本市においても出生数、幼稚園の園児数は年々減少している。

幼児教育の充実や保護者ニーズに配慮するため、2園のうち1園を休園とすることで、預かり保育の充実や給食の提供などが可能となることから、園内環境をさらに充実することができると考える。

第二幼稚園の園舎を取り巻く環境については、園舎は平屋建てであり、園内における安全確保や防災上の観点から、有事の際において、より安全

に避難できるという利点が挙げられる。

一方、保護者や関係者への休園決定までの説明については、プロセスに欠けていたことは否めないが、今後も引き続き丁寧な説明や話し合いの場を設けていただき、心配事や疑問点をなくすことで移行できるようお願いする。

幼児教育については、集団確保が困難な幼稚園では主体性や社会性を身につけていく

ことが危惧されていることから、さらなる教育の充実を図るために、適正規模の園にするのが求められているものである。

以上の理由からこの請願の採択に反対する。

賛成 沼倉 啓介

さまざまに休園にしなければならぬ背景等が述べられ、中には理解できるものも多々あるが、起案から決定に至るプロセスについて、拙速過ぎると感じられる物事の進め方は理解できず、それらが署名人

数4千585名という数字に示されている。

ここは起案をされた時点まで差し戻し、お互い関係する方々が手に手を取り合って最善の結論を模索すべきものと考え

る。

大きな物事に向き合う際の必要不可欠な事柄は、関係する保護者などへの理解を踏まえ

た上で決定するというプロセスを大事にすべきである。これらの事柄が最終的に結論を求めらるまで、お互いの考えをぶつけ出して最後の決定に至る、それこそが将来の子どもたちのために必要なことではないかと考える。

以上の理由からこの請願の採択に賛成する。

反対 菊地 忠久

保護者のニーズは多様化しており、また、待機児童の急激な増加が本市の新たな課題となっている。待機児童問題は喫

ことから、2園を1園にすることは保護者ニーズに答え、待機児童の解消に大きく貢献するものと考えられる。

今回の件は、よりよい幼児教育環境を図るため、スピード感を持っていち早く対応しようとした結果であり、現状維持に努めるのではなく、教育環境を模索し、教育の充実を図り対応していくことは、教育行政の責務である。

また、1年間休園を延長とする決定がなされたことから、今後の1年を通じ、保護者とよく話し合う場面を持ち、安心して1園体制に移行できるような望むものである。

どちらを休園とするかにおいて、第二幼稚園の敷地面積が第一幼稚園の1.6倍あること、第一幼稚園が2階建てなのに対し、第二幼稚園は平屋建てであり、少子化にもかかわらず増加傾向にある配慮を要する園児に対しては平屋建てのほうが好ましいという教育委員会の説明は合理的で正しいと判断する。

白紙撤回は問題の先送りであり、やむを得ず第一幼稚園を休園とするものの、第二幼稚園の1園体制とする最大の理由は、保護者ニーズに応え、子どもたちにとってよりよい教育環境とするためのものであることから、それが最善であるとの判断を下した教育委員会の決定を支持する。

以上の理由からこの請願の採択に反対する。

定例会最終日(12月19日)に請願第1号が採択されたことから、小川議長ほか副議長、厚生文教常任委員会正副委員長同席のもと、山田市長並びに半沢教育長へ「議決請願送付書」が提出されました。



議決請願送付書提出の様子